

【資料2(2枚目)】

リーディングプロジェクト	No.	前戦略からの継続性	実施事業	10年間のスケジュール					10年後に目指す姿
				2021 (R3) 年	2022 (R4) 年	2023 (R5) 年	2024～2026年度	2027～2030年度	
④ まちなか自然ふれあい活動推進	11	新規	まちなかにおける自然ふれあいの推進 実施主体：静岡市（環境共生課）	セミの抜け殻観察会実施 ・ 8月城北公園で実施（中央図書館連携）	実施 ・ 8月城北公園で実施（中央図書館連携）	実施 ・ 8月城北公園で実施(中央図書館連携)	継続 ・ 7月城北公園で実施(中央図書館連携)		市民が自然を身近に感じ、イベントやボランティア活動に気軽に参加している。
	12	新規(既存)	まちなかにおける環境保全活動の推進 実施主体：河川環境アドプトプログラム登録団体	新規参加者募集、広報誌掲載 オオキンケイギク駆除チラシ配布、職員派遣による実践	・ 広報誌、ここからネットへ掲載 実施	実施 実施	継続 継続		
	13	継続	麻機遊水地における自然観ふれあい活動の推進 実施主体：団体・企業（麻機遊水地保全活用推進協議会に所属）	第1、第3、第4工区において自然観察会 指定管理者の決定（あさはた緑地） あさはたマスター実施（あさはた緑地）	実施 指定管理者による事業の実施 指定管理者による事業の実施	実施 R6年度以降の指定管理者の募集・審査 指定管理者による事業の実施	継続 継続 継続		
	14	継続	花苗等配付による緑化支援 実施主体：静岡市（緑地政策課）	花壇に対する花苗や資材配付（年3回） 花壇コンクールの実施 花壇づくりに関する講習会の実施	実施（年3回） 実施 実施	実施（年3回） 実施 実施	継続 継続 継続	(団体間の情報共有機会の提供)	
⑤ 幼児期からの環境教育推進	15	新規(既存)	環境学習指導員の派遣 実施主体：静岡市（環境共生課） 受託者（派遣のコーディネート・謝金支払）	幼児を対象とした派遣 33回（25施設） 内訳：市立12回（10園/18%）私立20回（14園/10%） その他1回（1施設）	幼児を対象とした派遣 38回（28施設） 内訳：市立23回(15園/27%)私立15回(13園/10%) ・ 11月スキルアップ研修実施	幼児を対象とした派遣 26回（19施設） 内訳：市立18回(13園/22%)私立8回(6園・5%)	継続 継続	(認定こども園・保育園・幼稚園等の利用増加)	幼児の自然に親しむ機会が増え、成長しても自然を大切にする心が育まれている。
	16	継続	沼上資源循環学習プラザにおける環境学習の実施 実施主体：指定管理者（一財）静岡市環境公社）	環境学習の実施回数 ・ 76回	実施 ・ 45回	実施 ・ 85回	継続		
	17	継続	環境大学におけるリーダー育成 実施主体：静岡市（環境共生課）、静岡市沼上資源循環プラザ（しずもーる沼上）	環境大学の修了者数20名 ・ 廃棄物コース・自然環境コースの選択制	実施・修了者数25名 ・ 1つのコースにまとめる ・ 新規講座 3件	実施・修了24名 ・ 新規講座 3件	継続		
	18	新規R4～	こども園等に対する環境教育情報の提供 実施主体：静岡市（環境共生課）	幼児教育プログラム作成（静大） プログラムの実践、ブラッシュアップ	実施 ・ 生きもの元気通信の配付4回 ・ 動画の公開	・ 生きもの元気通信の配付1回 ・ 環境学習指導員入門講座実施 ・ 「いつもの保育に自然体験を」研修	継続 ・ 成果指標の内容に、2事業を追加		
⑥ 環境モニタリング等の市民参加推進	19	新規(既存)	水生生物のモニタリング調査 実施主体：市民調査員（毎年募集）	水のおまわりさん参加者数 ・ データ公表	実施 ・ データ公表	実施 ・ データ公表	継続 ・ 成果指標値を環境基本計画と揃える	(情報共有・データの蓄積)	市民が生きもの調査やモニタリングに気軽に参加できる体制が整備されている。
	20	新規(既存)	自然観察会における生きもの調査 実施主体：静岡市（環境共生課） 東海大学海洋学部	海浜植物観察会（三保松原周辺）⇒動画作成 プランクトン観察会（三保地区内海側）8月実施 シロウオ観察会（庵原川）3月実施	— 実施（8月） 実施（3月）	実施 渚の植物観察会（10月） 実施（8月） 実施（3月）	継続（8月） 継続（8月） 継続（3月）		
	21	新規R4～	市民参加による生きもの調査 実施主体：静岡市（環境共生課）	指標種の検討：麻機遊水地における指標種の決定 調査員による生きもの調査⇒体制整備 市民による生きもの調査⇒体制整備	調査員による指標種の調査実施 (魚類、カヤネズミ) 体制整備	実施 ・ モニ1000里地調査 カヤネズミ調査 ・ 麻機遊水地（巴川）魚類調査	実施 (調査結果を受けて指標種の見直しの検討)		
			市民生きもの調査員養成講座 実施主体：静岡市（環境共生課）	養成講座実施⇒修了生23名 生きもの調査員登録制度⇒要綱作成	実施・修了生21名 ・ 登録制度開始、調査員通信（メールマガジン）による情報提供実施	実施・修了生20名	実施 ・ 成果指標の目標値を見直し	(データの蓄積・解析・公表)	
計画全体の進め方	国の動き			30by30の推進 ・ 30by30ロードマップ策定（3月）	COP15モントリオール参加（12月） ・ 昆明・モントリオール生物多様性枠組採択 生物多様性国家戦略2023-2030策定（3月） ・ 30by30アライアンス発足（4月） ・ モニタリングサイト1000里地調査次期一般サイト募集（9月）	生物多様性地域戦略策定の手引き改訂（5月） TNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）の枠組みを公表（9月） 自然共生サイト（R5前期）認定サイト発表（10月）	ネイチャーポジティブ（自然再興）の実現		市民に「生物多様性」が認知され、保全活動に参加する人が増加している。
	市の動き			第2次地域戦略スタート	第4次静岡市総合計画策定（3月） 第3次静岡市環境基本計画策定（3月） ・ 環境・30by30アライアンス参加（4月） ・ 自然共生サイト(仮称)試行後参加	・ モニタリングサイト1000里地調査一般サイト(カヤネズミ調査)開始 ・ 自然共生サイト認定（麻機遊水地）	・ モニタリングサイト1000里地調査一般サイト(カヤネズミ調査)継続 ・ 自然共生サイトへの登録支援【候補地】静岡ガスピオトープ ・ GISを利用した市民生きもの調査	(改定に向けた情報収集・検討)	
	生物多様性地域戦略の周知			静岡まつり、SHIZUOKA PICNIC GARDENにてブース出展 生物多様性子どもフェア開催・動画公開	4月・5月実施 3月実施（こんちゅうクン講演会）	4月・5月実施 11月実施（こんちゅうクン講演会）	継続 継続		
	事業の推進・評価・改善			専門家検討委員会で新規事業の検討 他課との連携（事業について情報収集）	国家戦略の情報収集 継続	地域戦略・成果指標の見直し 継続	前期3年間の成果確認・進捗管理 継続	(中期3年間の成果確認・進捗管理)	